**海外語学研修・インターンシップ　履修上の注意**

●対象科目：

「海外語学研修Ⅰ/Ⅱ」（2単位、1-4、通年）,「海外語学研修Ⅲ/Ⅳ」（3単位、1-4、通年）

担当教員：日本語・日本文化学類長

海外で実施される語学研修に参加し、外国語運用能力と異文化適応能力を育成する。ただし、対象となる語学研修は、学類で定める所定の基準を満たすもののみとする。

\* 履修条件：日本語・日本文化学類正規生（JE生含）に限る。

「国際・協働インターンシップⅠ/Ⅱ」（3単位、2–4、通年）

担当教員：澤田 浩子

国内外で行う多文化共生に関わる社会的活動(日本語教育やそのほかボランティア活動、企業研修等)に対して、一定の条件・水準を満たしていると判断した場合に、インターンシップとして単位を認定する。

●履修方法：

(1) 履修希望者は、活動実施の少なくとも2ヶ月前までに科目担当教員に相談し、学類長室（2C206）に「活動計画書」を提出すること。

(2) インターンシップは、原則として、大学などの公的な教育機関で行われる活動で、かつ現地の教員等による定期的かつ綿密な指導が受けられることを条件とする。

(3) インターンシップ従事中は、科目担当教員の指導のもと、定期的に活動の報告を行うこと（形式自由）。

(4) 研修・実習後、受講証明や修了証等（海外語学研修）や、現地教員等による評価報告書（インターンシップ）、「活動報告書」に添付して学類長室に提出すること。

(5) (1)～(4)を以て、研修後の翌学期に、カリキュラム委員会の審議を経た上で、科目担当教員による単位認定を行う。

●書類記入時の注意事項

（1）「活動計画書」は、1枚程度に簡潔にまとめること。

（2）「活動報告書」は、「海外語学研修」は3枚程度、「国際・協働インターンシップ」は10枚程度にそれぞれまとめること。

（3）「活動報告書」の「研修・実習内容」は、書類の様式に従って、1日毎にその日に行った内容を箇条書きにすること。

（4）「活動報告書」の「研修・実習の成果」は、具体的にどのような実践を行い、そこでどのような学びがあったかを出来るだけ詳しく書くこと。とくに「国際・協働インターンシップ」の場合は、アクション･リサーチ的な観点から、実践の結果どのような問題が生じ、それを改善するために自分がどう取り組んだのかを具体的に記すこと。

（5）「活動報告書」の「まとめおよび今後の課題」は、研修・実習の総括と、今後の学修・生活における課題等を書くこと。

（6）記載方法が不明な場合は、担当教員に確認すること。

以上

海外語学研修・インターンシップ活動計画書

提出日：　　　　　　　　年　　　　　月　　　　日

学籍番号：

氏名：

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 1.履修希望科目 | 科目番号 | Ａ Ｅ | |
| 科目名 |  | |
| 単位数 |  | 単　位 |
| 2.研修・実習名 |  | | |
| 3.研修・実習国、機関名  （具体的に） |  | | |
| 4.研修・実習期間 | 年　　　　月　　　　日　～　　　　　　年　　　　月　　　　日 | | |
| 5.研修・実習概要 |  | | |
| 6.研修・実習参加の目的 |  | | |

海外語学研修・インターンシップ活動報告書

提出日：　　　　　　　　年　　　　　月　　　　日

学籍番号：

氏名：

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 1.履修希望科目 | 科目番号 | Ａ Ｅ | |
| 科目名 |  | |
| 単位数 |  | 単　位 |
| 2.研修・実習名 |  | | |
| 3.研修・実習国、機関名  （具体的に） |  | | |
| 4.研修・実習期間 | 年　　　　月　　　　日　～　　　　　　年　　　　月　　　　日 | | |

5.研修・実習内容（1日ごとに）

例）　月　 日　 時　 分～　 時　 分　内容：

6.研修・実習の成果（具体的に）:

7.まとめおよび今後の課題：

\*「海外語学研修」は全体で3枚程度、「インターンシップ」は全体で10枚程度にまとめること。